

地場産業を活かした起業から作家へ

中田 文雄（元雇用能力開発機構）

高岡で鋳物作家として著名な名取川雅司さんは富山総合職業訓練所（現ポリテクセンター富山）の修了生である。私より年配だが、私が勤めた訓練校の修了生として知ることになった。

氏は昭和33年に中学校を卒業すると当時は1年訓練であった鋳銅科に入所し、訓練を受けられた。指導担当者は小野、大源指導員が担当したという。名取川さんをいれて15名のクラスであった。

氏は子供の頃より物づくりや絵を描くことが得意であり、中学校の先生の勧めで訓練校の入所された。大変真面目な生徒であったという。訓練期間は一年間で、基礎的な鋳物作業や銅器仕上げ作業を訓練する。

感性が豊で優秀であったので、修了後は国指定無形文化財の2代目須賀松園（日展会員）工房に入門を薦められ、工房に入って修行する。

鋳造の一分野である大変高度な技術を必要とする蠟型鋳造法を学んだ。蠟型法は精密で複雑な製品が作られる特徴があります。

氏は、精進して昭和56年に独立して原型士となった。

独立後、高岡地場産業の鋳造業の要である原型士として高岡銅器産業の発展に寄与する。

大きなものでは公園に設置され、動物や人のモニュメントや小さな日常雑器に至るまで何でも製品として、これまで100万個の製品を世の送り出している。高岡銅器産業の原型士として第一人者になった。

また、21年間の修行の後、作家活動として蠟型技法による鋳銅作品、銀作品を日展に出品して、現在は会友となっている。所属は社団法人日本工芸会の会員で文部科学大臣賞を授与されている。

デザインがモダンで評価が高く、日本でも数少ない蠟型の技術者です。国指定無形文化財となっている。

さらに、高岡市および雇用能力開発機構による後継者育成事業に数多くの協力を頂いています。

後継者育成セミナーである「蠟型法」、「原型法」等の講師として指導担当していただき、高岡鋳物業の従業員、問屋従業員等の育成に当たって頂いている。

職業能力を習得して起業する人は少なくないが、さらに精進され作家までになられ、そして後任の育成にも尽力されている方です。